

令和5年6月8日
愛媛大学

愛媛大学医学部附属病院において HPV ワクチンのキャッチアップ集団接種を実施します

令和5年6月13日(火)、愛媛大学医学部附属病院において子宮頸がんの発症を予防するヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチンのキャッチアップ接種を行います。対象者は積極的勧奨が差し控えられていた期間に定期接種の対象であった医学部職員および学生約100人です。

日本では、年間約1万人が子宮頸がん罹患し、そのうち約3,000人が死亡しています。子宮頸がんの罹患年齢のピークは25-44歳と若く、多くの働き盛りの若い女性や出産子育て世帯の女性が子宮頸がん罹患し妊娠できなくなったり命を失ったりしている日本の現状は深刻です。

今回のキャッチアップ接種を機に、子宮頸がん予防のためのHPVワクチンの重要性を広くお伝えしたいと考えています。

つきましては、是非、取材くださいますようお願いいたします。

なお、接種会場での取材に関しまして、下記規定時間内の映像撮影は可能ですが、個人への取材および接種ブース内での取材はご遠慮ください。

記

■日程:令和5年6月13日(火)17時15分~18時00分

■当日スケジュール

時間	内容	場所
17時15分~17時25分	事前説明	管理棟2階中会議室
17時30分~17時40分	接種会場取材	多用途型トリアージ施設
17時45分~18時00分	スタッフインタビュー(注1、2)	管理棟2階中会議室

(注1)担当医師、本院産婦人科助教である宇佐美医師によるHPVワクチンの効果およびキャッチアップ接種に関する説明

(注2)ワクチンを接種した当院スタッフへのインタビュー(予定)

本件に関する問い合わせ先

愛媛大学医学部

総務課 企画・広報チーム

電話:089-960-5943

Mail: mekoho@stu.ehime-u.ac.jp

※送付資料2枚(本紙を含む)

HPVワクチンのキャッチアップ接種について

- ▶ 日本では、子宮頸がんは年間に約1万人が罹患し約3,000人が死亡しています。多くの先進国では子宮頸がんの罹患率や死亡数は減少しているのに対し、日本はHPVワクチンや検診の普及が進まず罹患率や死亡数が増加傾向にありとても大きな問題となっています。**子宮頸がんの罹患年齢のピークは25-44歳と若く、多くの働き盛りの若い女性や出産子育て世代の女性が子宮頸がん罹患し妊娠ができなくなったり命を失ったりしている日本の現状は非常に深刻です。**
- ▶ ヒトパピローマウイルス（HPV）は子宮頸がんを引き起こすウイルスです。子宮頸がんの95%はHPVが原因であることが分かっています（子宮頸がんにはHPV感染と関連のないものもありますが稀です）。
- ▶ HPVウイルスはありふれたウイルスで、性的接触によって感染します。感染しても無症状なので感染に気付くことはありませんが、生涯のうちにHPVに感染したことがある女性は全女性の80%以上とも推定されており、つまり性交経験のある女性はほぼすべて感染したことがあるといえます。
- ▶ このHPV感染を予防する方法がHPVワクチン接種です。HPVワクチンの定期接種プログラムは2000年代後半より世界各国で導入が進み、日本は2013年に12-16歳の女子を対象とした定期接種プログラムを開始しました。しかし接種後に報告された多様な症状等について十分に情報提供ができない状況にあったことから、個別に接種を奨める取り組みが差し控えられていました。数々の調査研究も施行され、2021年にHPVワクチンの安全性についてあらためて確認されて2022年4月より積極的な接種勧奨が再開となりました。
- ▶ ただ、HPVワクチン接種の積極的勧奨が差し控えられていた期間に定期接種の対象であった女子の中にはワクチン接種の機会を逃した方がかなり多く存在します。こうした方に公平な接種機会を確保する観点からキャッチアップ接種の制度が設けられています（2022年4月～2025年3月の3年間、公費で接種可能）。
- ▶ HPVワクチンはHPVの感染機会前つまり初交前の接種が望ましいワクチンではありますが、キャッチアップ接種の意味は性交経験があってもいずれかの型のHPV感染があっても、ワクチンに含まれるそれ以外の型のHPV感染を予防することです。キャッチアップ世代へのHPVワクチン接種に関して国内外で研究され、有効性があることが報告されています。

今回、愛媛大学医学部附属病院では、職員や学生を対象としてHPVワクチンのキャッチアップ接種の集団接種を行います。あらためてHPVワクチン接種の重要性を確認していただき、積極的に接種してほしいと考えています。

キャッチアップ接種の対象

- ✓ 誕生日が1997年4月2日～2007年4月1日の女性
- ✓ 過去にHPVワクチンの接種を受けていない

※ 今回の集団接種では3回とも受けていない方のみを対象としていますのでご了承ください。
(すでに1回もしくは2回接種済の方は接種医療機関で個々に接種をしてください)

※ 2023年4月より定期接種として公費でも受けられるようになった9価ワクチン（シルガード®9）を使用します。

一般的な接種スケジュール



【副作用】（※は接種部位の症状）

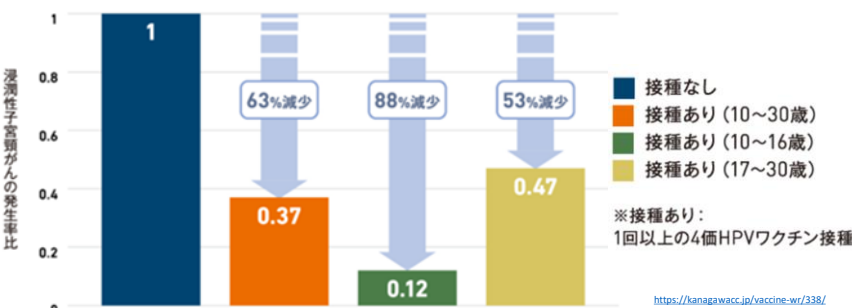
発生頻度	9価ワクチン(シルガード®9)
50%以上	疼痛*
10～50%未満	腫脹*、紅斑*、頭痛
1～10%未満	浮動性めまい、悪心、下痢、そう痒感*、発熱、疲労、内出血*など
1%未満	嘔吐、腹痛、筋肉痛、関節痛、出血*、血腫*、倦怠感、硬結*など
頻度不明	感覚鈍麻、失神、四肢痛など

【注射部位】



- ※1 1回目から1か月以上あける。
- ※2 2回目から3か月以上あける。
- ※ 1年以内に接種を終えることが望ましい。
- ※ 15歳未満はスケジュールが異なる（2回接種が可）。
- ※ 1回目、2回目に気になる症状が現れた場合は、2回目以降の接種をやめることができます。

HPVワクチンの接種年齢と浸潤性子宮頸がん発生率



✓ HPVワクチン定期接種が普及している国を中心に、ワクチンの効果を実証するデータが多く報告されています。

更に情報を得たい方は参考にしてください

→→

日本産科婦人科学会：子宮頸がんとHPVワクチンに関する正しい理解のために世界の動向を含めた詳しい解説が掲載
https://www.jsog.or.jp/modules/jsogpolicy/index.php?content_id=4
 YOKOHAMA HPV PROJECT：世界と日本の子宮頸がんを含むHPV関連疾患の予防に関する最新情報が掲載
<https://kanagawacc.jp/>
 厚生労働省：キャッチアップ接種に関する案内やQ&Aが掲載
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/hpv_catch-up-vaccination.html